

芸大通信.

Vol.014

京都市立芸術大学広報誌 2011年 3月
創立130周年記念事業 主な活動の記録



学 長

建 畠 哲 *Akira Tatehata*

ごあいさつ

周知のように、本学は昨年、建学以来130年という記念すべき年を迎えました。また公立大学法人への移行という、制度上の大きな変革を来年に控えており、日本の近代芸術の屋台骨を支えてきた輝かしい伝統を守り育てながら、新たな体制のもとに積極的に新機軸を打ち出すという、大学運営の難しい舵取りをしなければなりません。学長としてはまだ就任早々の身ではありますが、学内外の皆様のご理解を得ながら、さまざまな課題に全力で取り組むつもりでおります。

本学の特質は、なによりもまず国際的に知られた文化芸術都市、京都に位置するという恵まれた環境にあります。伝統を誇る古都であると同時に革新の息吹に満ちた文化の発信基地でもある京都の真のシンボルたりうる大学として、研究教育の基盤を強化するとともに、学外との連携をも意欲的に推し進めていくことは、私たちに課せられた使命であるに違いありません。

いま顧みれば、本学の130年は、絶えざる自己革新の歴史そのものであったといえるでしょう。文化芸術の創造拠点としての期待に応えるためには、一刻の停滞も許されません。新たな大学像の確立に向けてのエネルギーにあふれた本学の活動に、皆様のご支援を賜るよう、改めてお願い申し上げます。

建 畠 哲 略 歴

京都府出身。美術評論家、詩人。早稲田大学文学部仏文学科卒業後、新編社「芸術新潮」編集部勤務、国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授等を経て、平成17年より国立国際美術館館長、独立行政法人国立美術館理事を務めた。平成22年あいちトリエンナーレ2010芸術監督。外務省独立行政法人評価委員会国際交流基金分科会長、セゾン現代美術館理事、大阪市立東洋陶磁美術館理事、日本ペンクラブ会員など。主な著書として、美術評論集『問いなき回答』(1998年 五柳書院)、『現代アート入門』(編著/1998年 平凡社)、美術評論集『未完の過去』(2000年 五

柳書院)、『表象のディスコース』(共著/2000年 東京大学出版会)、エッセイ集『ダブリンの緑』(2005年 五柳書院)、詩集『そのハミングをしも』(1993年 思潮社)、詩集『バトリック世紀』(1996年 思潮社)。『Collected Poems by English, Runners in the Margins』(2003年/PSA Press: Middletown, Springs, Vermont, USA) ほか。1991年詩集『余白のランナー』で第2回歴程新鋭賞、2005年詩集『零度の犬』で第35回高見順賞を受賞、2010年オーストラリア政府名誉勲章を受章。

130周年関連 主な実施事業

- …美術学部・美術研究科関連
- …音楽学部・音楽研究科関連
- …日本伝統音楽研究センター関連

2009

- 第133回定期演奏会
12月4日(土) 京都コンサートホール・大ホール

2010

- 第25回大学院オペラ公演
2月19日(金)・20日(土) 京都会館第二ホール
- 平成21年度 第3回公開講座
芸能における笑いと遊び心
3月6日(土) (プレ事業) 京都芸術センター
- 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA開館記念
京芸 transmit program #1 『きょう・せい』
4月2日(金)～5月30日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
- 平成22年度 第1回公開講座
第三の能狂言 ― 鷲流狂言の伝承 ―
6月26日(土) 大江能楽堂
- 日本画をつなぐ
6月12日(土)～7月4日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
- 第135回定期演奏会
7月4日(日) 京都コンサートホール・大ホール
- Trouble in Paradise／生存のエシックス
7月9日(金)～8月22日(日) 京都国立近代美術館
- 進化のものがたり～Une histoire de l'évolution～
9月7日(火)～9月26日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
- 京都日本画の誕生 ― 巨匠たちの挑戦 ―
9月25日(土)～11月7日(日) 京都市美術館 本館
- 平成22年度 第2回公開講座
京の芸能にみる創造の可能性
― 見え隠れする本歌取りの精神 ―
11月7日(日) 京都市立芸術大学 講堂
- 日本画をつなぐ 130th Series
日本画作品展 CLASS 京芸大日本画×大丸
11月17日(水)～30(火)
大丸心齋橋店南館 8階特選ギャラリー
- 第136回定期演奏会 ― 更なる復活 ―
12月5日(日) 京都コンサートホール 大ホール

2011

- 平成22年度 第3回公開講座
京観世の伝統
― 記録と記憶から聞こえるもの ―
2月5日(土)～13日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア (@KCUA 2)
- 京芸生を育んだ先生の作品展
3月5日(土)～27(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア (@KCUA 1)

Scene 130周年記念式典



2010年7月3日、130周年記念式典を開催しました。本学名誉教授・岸邊百百雄氏、本学卒業生・美術作家やなぎみわ氏による記念講演、音楽学部生による記念演奏会を行いました。

美術学部 美術研究科

Faculty of Arts



Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts

京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
オープン記念展

「きょう・せい」



4月2日(金)~5月30日(日)

京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
(堀川御池ギャラリー内)

130周年を記念して新設されたギャラリー・アクアの開館記念企画展として、第1期と第2期にわたって京都芸大の「いま」を紹介する、本学の卒業生、修了生を中心としたグループ展を開催しました。

第1期は「共創」のかたちの表現として、出品作家同士が一部共同して制作を行ったり、これまでの作品をもとに、柔軟に自らのかたちを変化させて展示する試み、第2期は作家の制作活動に焦点を当てながら、世界と関わる「個」の意味と可能性を探りました。

Trouble in Paradise

生存の エシックス



7月9日(金)～8月22日(日)
京都国立近代美術館

表現論理に関わる芸術を触媒として宇宙・環境・医療・生物など諸領域と日常生活を結びつけ、「生きるための方法」をさまざまな形で実験し探し求めること。 — このようなテーマのもとに本展では、国内外 12 のプロジェクトが紹介されました。

内外の研究機関に美術館も加えた協力関係のもと、プロジェクトは、蜜蜂による健康診断、宇宙船内で浮遊する庭園、キクイ虫の音声信号を利用した森林保全計画など、一見現実離れた視点から地球上の諸問題にアプローチすることで、人間という condition を幅広い角度から見つめ直し「生存」に関わる基本概念を再構築することをめざしました。また館内

には「ワークルーム」を設置し、これをハブとして、フィールドワーク、パネルディスカッション、ワーク・イン・プログレスへの参加など様々なプログラムを連日実施し、鑑賞者が身体を通じて創造のプロセスに触れ思考を紡ぎ出す場とすると共に、「教育・研究・制作」を横断的に結び付ける新たな芸術大学の在り方の提案ともなりました。

進化の ものがたり

~Une histoire de l'évolution~



9月27日(火)～26日(日)

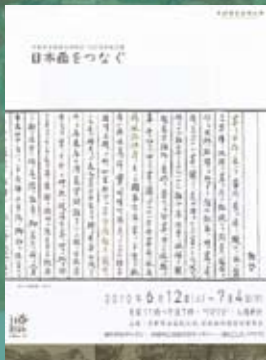
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
●2011年4月 フランス・パリにて巡回展

主催：京都市立芸術大学ビジュアルデザイン専攻
フランス国立高等装飾美術学校
イマージュアンプリメ専攻
Ecole Nationale Supérieure des Arts
Décoratifs image imprimée

本学ビジュアルデザイン専攻とフランス国立高等装飾美術学校(ENSAD)イマージュアンプリメ専攻はこの10年間共同授業で制作した作品の展覧会を日本とヨーロッパの各地で開催してきました。今回の「進化のものがたり」は、同じく共同授業で制作した進化をテーマとする絵本の展覧会です。

この企画は学生たちが「進化」に関する専門書を読み、その内容を子供たちに伝えるためのオリジナルストーリーを作り、絵本に仕上げるといったものです。魚・植物・ほ乳類・人類・・・学生たちが選択した題材は多種多様であり、「進化」という科学で証明された事実を、子供たちに分かりやすく楽しく伝えるビジュアルコミュニケーションとしての創意工夫が見られました。

日本画をつなぐ



6月12日(土)～7月4日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア



本学日本画専攻は1880年の画学校創設以来、その伝統を継続する教育を行い、多くの著名な作家を輩出すると共に、一貫して写生を軸にした基礎教育を行ってきました。自然への共感と対話を通じて豊かな精神を養い、自己研鑽を行うことを目的とし、絵画表現以外の領域でも活躍できる人材を育成し、社会に貢献し続けています。また、その教育は留学生を中心に世界へと広がりを見せています。

今回の展覧会では、日本画研究室が行ってきた教育の成果を、「岩彩画」という新たな領域を切り開きつつある中国の動向、本学と東京芸大の技術支援により整備され保存活動の進む敦煌石窟の現状、そして日本画研究室の現在を、実際の作品と共に紹介致しました。併せて会期中に日本画研究室教員による公開授業や同展出品の中国人画家・敦煌研究院美術研究所所長による講座をそれぞれ行いました。

Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts

京都日本画の誕生

—巨匠たちの挑戦—



9月25日(土)～11月7日(日)
京都市美術館



日本画をつなぐ 130th Series

日本画作品展 CLASS

京都芸大日本画×大丸



11月17日(水)～30日(火)
大丸心斎橋店南館8階特選ギャラリー

講義「日本画の作り方」

- 11月 20日(土) レシピ1 「画道」
- 11月 21日(日) レシピ2 「画法」
- 11月 23日(火・祝) レシピ3 「動機」



日本画の研究と教育を、今日的視点から再構築する共同研究において、本学日本画研究室と大丸心斎橋店が、デパートのギャラリーにおける新しい展覧会の形を提示しました。出品者が、3日間の講義を行い研究の一端を公開。会場はこれまでに例を見ない数の参加者であふれ、じっくり楽しみ深く学ぶ、大学のような空間となりました。



Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts Faculty of Arts

京芸生を育んだ 先生の作品展

Kyoto City University of Arts
Faculty Exhibition



2011年 3月5日(土)～27日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
(@KCUA 1)

主催：京都市立芸術大学 美術学部同窓会



130周年記念の展覧会の最後に、これまでに本学で教鞭をとられた先生方より、26名の作品を一堂に集めた展覧会を開催しました。

音楽研究科 音楽学部

Faculty of Music

第133回 定期演奏会



12月4日(土)

京都コンサートホール

演目: L.V.ベートーベン/
交響曲第9番「合唱付き」

指揮: 阪 哲朗
(ドイツ・レーゲンスブルク歌劇場音楽監督)



創立130周年記念事業の皮きりとして、学生、教員、卒業生、市民有志(合唱団)など、あわせて計150名が出演し、阪哲朗氏の指揮により、若々しく快活な第9番を演奏しました。

第25回 大学院 オペラ公演



2月19日(金)・20日(土)
京都会館第二ホール

演目: ヴェルディ「椿姫」
指揮: 阪 哲朗
(ドイツ・レーゲンスブルク歌劇場音楽監督)

毎年学内の講堂で行われ、例年好評頂いているこの公演ですが、今回は会場を京都会館に移し、オペラの演目として広く知られている、ヴェルディの「椿姫」全2幕を演じました。本格的な舞台セットや衣裳、ダンサーの登場など、華やかな演出のなかでの出演者の熱演が観客を魅了しました。



Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music Faculty of Music

第135回 定期演奏会

市民が選んだプログラムによる
リクエスト・コンサート



7月4日(日)
京都コンサートホール 大ホール

演目: グリンカ/歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
プロコフィエフ/ピアノ協奏曲第3番 / 長調作品26
チャイコフスキー/交響曲第4番へ短調 作品36
指揮: 増井 信貴 (本学音楽学部教授)
ピアノ独奏: 浦山 瑠衣 (本学音楽学部4回生)
管弦楽: 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団

この回の演目は、「市民の選んだ一曲」として、チャイコフスキー作曲「交響曲第4番」を演奏しました。開演前にはロビーにおいてプレコンサートも開催しました。



●プレコンサートの模様



第136回 定期演奏会 —更なる復活—



12月5日(日)
京都コンサートホール・大ホール
演目: G.マラー/交響曲第2番「復活」
指揮: 広上淳一(京都市交響楽団常任指揮者)



「市民とともに130年—原点から未来へ、そして世界へ」をテーマに、教員、OB、京都市立京都堀川音楽高等学校の生徒、市民の参加のもとに、京都市交響楽団常任指揮者の広上淳一氏を迎え、演奏しました。



Scene 本年度退任教授による 記念講演・コンサート

平成23年3月末をもって、秋山哲郎教授(美術学部・美術研究科/保存科学)、松本日之春教授(音楽学部・音楽研究科/作曲)、三井ツヤ子教授(音楽学部・音楽研究科/声楽)、神谷郁代教授(音楽学部・音楽研究科/弦楽)の退任記念として、講演会・演奏会が催されます。(一部終了しました)長きにわたり、本学での教育活動に力を注いで頂いた先生方に感謝するとともに、これからのますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

秋山哲郎 教授 退任記念講演会



2011年2月15日(火)
会場: 本学中央棟3階 講義室2
※この講演は終了しました

美術

松本日之春 教授 退任記念コンサート



2011年5月14日(土)
19時開演 (18時開場)
京都コンサートホール・小ホール
(アンサンブルホールムラタ)

音楽

三井ツヤ子 教授 退任記念リサイタル



2011年5月27日(金)
19時開演 (18時開場)
京都コンサートホール・小ホール
(アンサンブルホールムラタ)

音楽

神谷郁代 教授 退任記念リサイタル



2011年5月28日(土)
19時開演 (18時開場)
京都コンサートホール・小ホール
(アンサンブルホールムラタ)

音楽



Research Centre for
Japanese Traditional Music

日本伝統音楽
研究センター

Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre

林家染丸：実演「人形噺」

平成21年度第3回公開講座

芸能における
「笑い」

本学の日本伝統音楽研究センターと京都芸術センター開設10周年を記念しての特別企画として、また本学130周年記念プレ公演として、「笑い遊び心」をテーマに、落語、邦楽、日本舞踊と各界で活躍中の出演者を招き、講演と実演を行いました。



3月6日(土)
京都芸術センター

出演：林家染丸(落語家)・池上真吾(地歌箏曲演奏家・作曲家)菊史雄司(地歌箏曲演奏家)・富山清琴(地歌箏曲演奏家・人間国宝)・若柳吉蔵(日本舞踊若柳流宗家)・常磐津一佐太夫・常磐都代太夫・常磐津都瓦蔵・常磐津都史 (敬称略)



舞踊「そば屋の三ツ面」：舞踊／若柳吉蔵、演奏／常磐津一佐太夫 他

平成22年度第1回公開講座

山口鷺流狂言

—地域伝承の可能性—



6月26日(土)

大江能楽堂

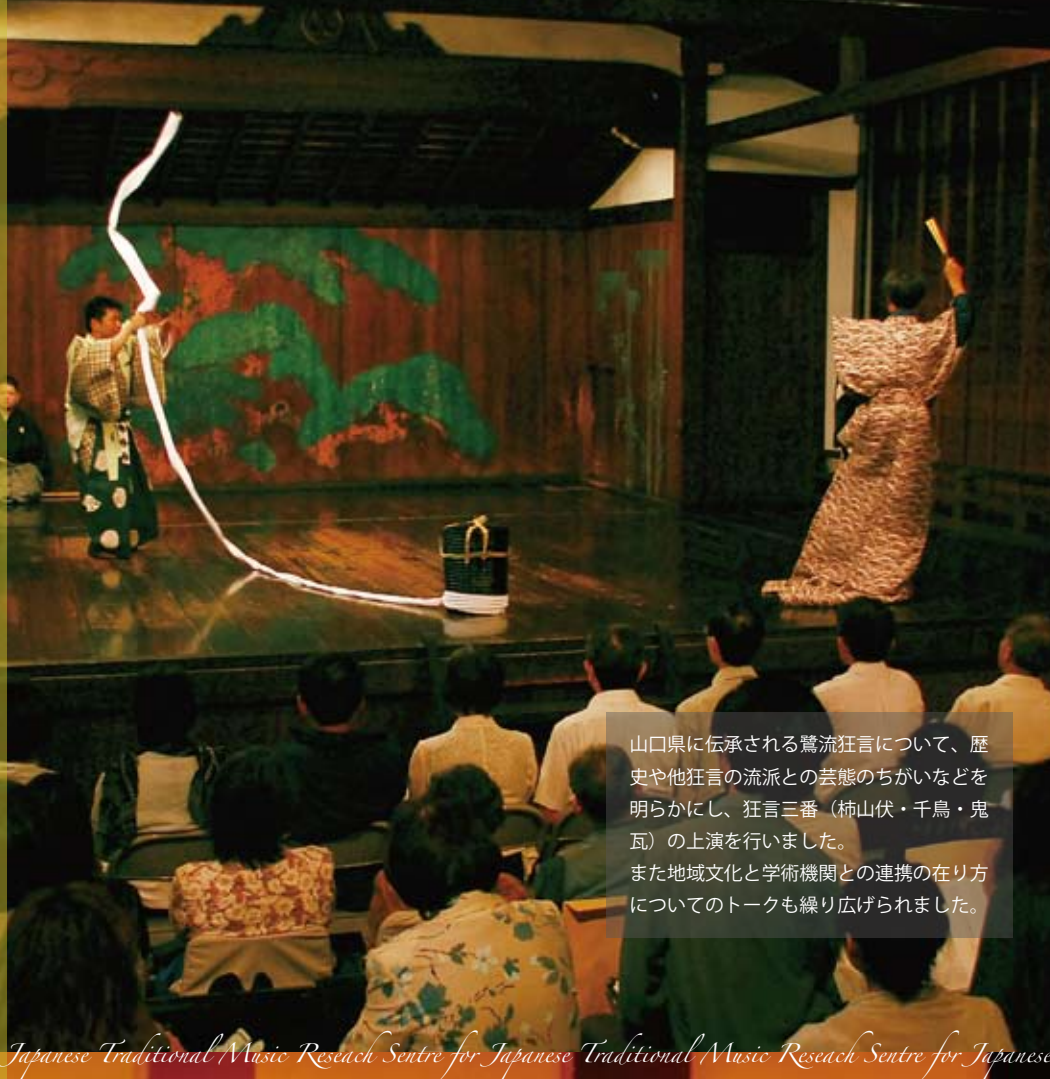
< 出演 >

(上演) 山口鷺流狂言保存会

(講演) 稲田秀雄 (山口県立大学教授)

(トーク) 川島朋子 (京都女子大学短期大学部准教授)

藤田隆則 (本学日本伝統音楽研究センター准教授)



山口県に伝承される鷺流狂言について、歴史や他狂言の流派との芸態のちがいなどを明らかにし、狂言三番（柿山伏・千鳥・鬼瓦）の上演を行いました。また地域文化と学術機関との連携の在り方についてのトークも繰り広げられました。

for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese

井上八千代：京舞「八島」

平成22年度 第2回公開講座

京の芸能にみる創造の可能性

—見え隠れする本歌取りの精神—



2011年 11月7日(日)

京都市立芸術大学・講堂

主催：京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター
協賛：真如苑 社会貢献基金
協力：(財)片山家能楽・京舞保存財団
京都舞台



すでにあったもの、古いものをステップとして、新しいものを創造しようという前向きな精神。私たちが常に大切に取組んでいるものと言えます。こうした精神は、和歌・連歌の本歌取りをはじめそれに類した手法により、文学・美術・芸能の諸分野に見え隠れしつ展開されています。今回の公開講座では、これらについて、パネリストによる提示例を踏まえて考察し、また、源平合戦の物語の中でもとくに見どころが凝縮している「八島もの」に着目し、実演を交えてその系譜をたどることにより、本歌取りの精神によって生み出される創造の可能性について考えました。



片山清司：観世流「屋島」



須田誠舟：琵琶における「八島」の世界



第1部：パネルディスカッションの様子

○ 出演：第1部 パネリスト 小野恭晴(日本歌謡史)、冷泉為人(日本美術史)、岡田万里子(演劇学)、久保田敏子(日本伝統音楽研究センター所長・日本音楽史)、藤田隆則(日本伝統音楽研究センター准教授・民族音楽学) / 司会：後藤静夫(日本伝統音楽研究センター教授・日本音楽史)
第2部 実演と解説 —「八島」の系譜— 解説 岡田万里子
実演 片山清司：観世流「屋島」 須田誠舟：琵琶における「八島」の世界 井上八千代：京舞「八島」

平成22年度 第3回公開講座
京観世の伝統
—記録と記憶から見えるもの—



2011年 2月5日(土)~13日(日)
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア
(@KCUA 2)

主催：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
協力：繪書店・洛誼社

「京観世」とは京都の観世流の能や謡を指すために用いられた言葉です。この講座では、研究者、能楽演技家を講師として招きつつ、書かれた記録と担い手の記憶から、かつての京観世の謎いぶりの実態にせまり、京観世京観世の未来を展望しました。



2月11日の講演の様子

Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese Traditional Music Research Centre for Japanese Traditional Music Research

Scene 京都市立芸術大学ギャラリー・アクア



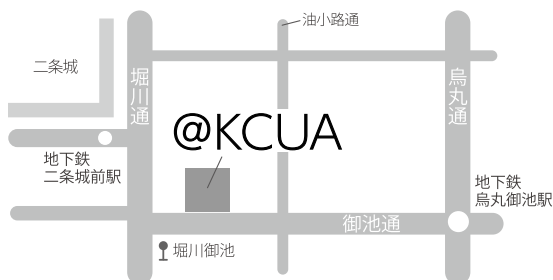
●展示室は2室あり、それぞれ「@KCUA(アクア)1」「@KCUA2」と名付けています。

平成22年4月にオープンした、京都市立芸術大学ギャラリー・アクア(堀川御池ギャラリー内)は、これまで「興味はあるけれども芸大までは遠くてなかなか足が向かなかった」という方々にも、お気軽にお越し頂ける場所となっています。

平成22年度は130周年記念の展覧会をはじめ、芸大の学生や卒業生を中心とした作品の展覧会、日本伝統音楽研究センターの公開講座などの講演会を開催しました。

新たな拠点からより多くの皆様にお楽しみ頂けるよう、今後もさまざまな企画を予定しております。

皆様のお越しをお待ちしております。



@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア【堀川御池ギャラリー内】

ギャラリーホームページ

<http://www.kcuu.ac.jp/gallery/>

- 地下鉄「二条城前」駅 2番入口より徒歩3分
- 市バス「堀川御池」バス停下車すぐ

Information

平成23年度 前期事業予定

■ 美術学部関連(展覧会)

- 京芸Transmit Program #2
転置 - Displacement -
4月9日(土)～5月22日(日)
ギャラリー・アクア
- アジア芸術家交流展
6月4日(土)～7月3日(日)
ギャラリー・アクア/GalleryA,B,C
- 総合基礎実技展(仮)
7月14日(木)～8月7日(日)
ギャラリー・アクア
- Colors of KCUA 2011
8月13日(土)～8月21日(日)
ギャラリー・アクア(@KCUA1)
- 2011@KCUAサマークワックション
8月10日(水)～8月21日(日)
ギャラリー・アクア(@KCUA1)
- ARTであしあと2
芸術資料館収蔵品展
8月24日(水)～9月11日(日)
ギャラリー・アクア(@KCUA1)
- ヴィジュアルデザイン専攻展
「おくる、つなぐ。」(仮)
8月24日(水)～9月11日(日)
ギャラリー・アクア(@KCUA2)
- NOTE展(大学院彫刻専攻によるグループ展)
9月14日(水)～9月25日(日)
ギャラリー・アクア

■ 音楽学部関連

- 京大時計台記念館
コンサートシリーズ1
5月8日(日)
京都大学百年時計台記念館
百年記念ホール
- 松本日之春 教授
退任記念コンサート
5月14日(土)(19時開演)
京都コンサートホール・小ホール
(アンサンブルホールムラタ)
- 三井ツヤ子 教授
退任記念リサイタル
5月27日(金)(19時開演)
京都コンサートホール・小ホール
(アンサンブルホールムラタ)
- 神谷郁代 教授
退任記念リサイタル
5月28日(土)(19時開演)
京都コンサートホール・小ホール
(アンサンブルホールムラタ)
- ウェスティ「音暦」1
6月4日(土)
京都市西文化会館ウェスティ
- 第25回ピアノフェスティバル
6月8日(水)
府民ホールアルティ
- 第138回芸大定期演奏会
7月3日(日)
京都コンサートホール・大ホール

■ 日本伝統音楽研究センター関連

- 平成23年度 でんおん連続講座A
能を解剖する
— 謡の朗読、手付・形付の読解を通じて
4月20日(水)～6月29日(水)
10:40～12:10 <全10回>
京都市立芸術大学/新研究棟7階
- 平成23年度 でんおん連続講座B
義太夫節の音楽としての
しゅみを理解する
— 文楽を深く鑑賞する
4月20日(水)～6月29日(水)
13:00～14:30 <全10回>
京都市立芸術大学/新研究棟7階
- 第1回伝音セミナー
「平成22年度企画展示『SPレコード
レーベルに見る日蓄—コロムビアの
歴史』を聴く」
5月12日(木)
京都市立芸術大学/新研究棟7階
- 第2回伝音セミナー
「菊原琴治を聴く」
6月2日(木)
京都市立芸術大学/新研究棟7階
- 第3回伝音セミナー
「三代目常磐津松尾太夫を聴く」
7月7日(木)
京都市立芸術大学/新研究棟7階
- 第4回伝音セミナー「長唄の名人達」
9月1日(木)
京都市立芸術大学/新研究棟7階

各事業に関する詳細内容については、大学ホームページ、ギャラリー・アクアホームページ、各事業チラシ等で順次お知らせいたします。
イベントチラシは本学内・ギャラリー・区役所など関連施設のほか、本学関連イベント内でも配布いたします。

Access

京都市立芸術大学へのアクセス



■ JR京都駅から

- ▶ 京阪京都交通バス(C2のりばから) 2・14・28系統に乗車(約45分)「芸大前」下車すぐ
- ▶ 京都市バス(C5のりばから)73系統に乗車(約45分)「国道沓掛口」下車、徒歩5分
*京都駅バスターミナルはJR京都駅北側(烏丸中央口側)

■ 阪急桂駅から

- ▶ 京阪京都交通バス(東口・2番のりば(セブンイレブンの前)から) 1・2・13・14・25・28系統に乗車(約15分)、「芸大前」下車すぐ
- ▶ 市バス(西口から) ※平日の日中は毎時平均3本運行
西1・西5・西8系統に乗車(約20分)「新林池公園」下車、徒歩10分

■ JR桂川駅から

- ▶ 京阪京都交通バス 11A系統に乗車(約15分)、または12A系統に乗車(約20分)、「芸大前」下車すぐ
- ▶ ヤサカバス 1号系統(桂坂中央行き)に乗車(約15分)「新林池公園」下車、徒歩10分、または「国道沓掛口」下車、徒歩5分

